
今日で魔王辞める！

舞傘 真紅染

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

今日で魔王辞める！

【Nコード】

N7953R

【作者名】

舞傘 真紅染

【あらすじ】

【Smile Japan】企画作品第二弾。

魔王。それは誰よりも強く、誰をもひきつける魅力を持つ威厳ある存在……のはずだった。

重苦しい空気だった。

「い、今何と？」

その部屋には二人の男がいた。一人は今声を出した禿頭で薄い目の老人。背中にはこうもりの羽に似たものが大小五つ生えていた。

もう一人はとても豪勢な椅子に座っている男。黒々とした髪は艶やかに波打ち、その髪の間からは三日月形の立派な角が二本、伸びていた。顔立ちは彫が深く、髪と同じ黒い瞳とあいまって見る者全てを惹き込む。そして何と言ってもその存在感は、他者を圧倒する。男はわずかに眉を動かした。そんなわずかな動きでさえ、魅惑的だ。

「そんな！ お考え直してください！ 魔王様」

老人は一人声を荒げた。男　魔王は首を横に振って立ち上がる。魔王の前には赤黒く光る落書きのようなものが浮かんでいた。それは上級魔族だけが使う文字であった。その文字が変化する。老人の顔は蒼白だ。

2

「お願いです魔王様。どうか今まで同様我々をお導きくだされ」

どこかへと歩き出そうとしている魔王に老人はさすが。魔王がいなくなれば、この魔界はどうなるのか。想像しただけで身が震えた。

しかし魔王は無言で足を進める。老人の抵抗など関係ないといわんばかりだ。分かっている。魔王にしてみれば自分の抵抗など無意味。それでも彼は魔王を引きとめようと必死だった。

「どうしてのですか。どうして、突然」

「アベスタ」

扉の前まで来た時、魔王が初めて口を開いた。声は低く、太く、

性別種族関係なく聞きほれてしまいそうな声だった。が、老人
アベスタはビクリと魔王から素早く離れた。顔色は先ほどよりも悪
い。何とも気持ち悪そうだった。

魔王はアベスタの反応に慣れているのか。気にした様子なく、言
った。言ってしまった。

「あちし、勇者に惚れたのよ」

(後書き)

勇者の運命や如何につ？

うーん。まだまだ押しが弱い。コメディイは本当に難しい。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7953r/>

今日で魔王辞める！

2011年7月26日06時30分発行